２０２０年（令和２年）２月３日　月曜日
東奥日報　８面　掲載

氷都新時代！八戸国体

澤尻（八学大）底力で3位

3000メートル成年女子

後輩と声援が後押し

「恩返しになったかな」

好記録マーク

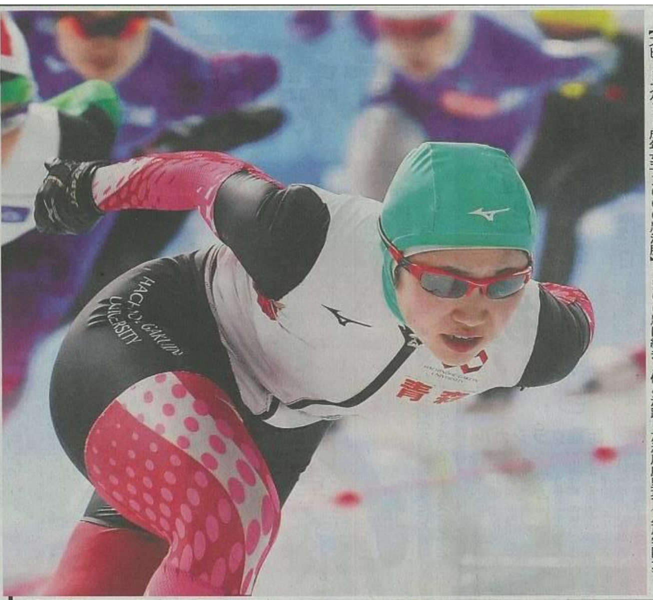
周りには世界大会にも出場経験のある全国レベルの選手ばかり。「実力では勝てない。力を貸してください」。スピード成年女子3000㍍の決勝。澤尻（八戸学院大）は慣れたリンクと大観衆に祈り、スタート場所を決めるくじで前列内側の好位置を引いた。「いける」。号砲とともに迷わず先頭に飛び出した。

作戦通り、最初の1周で責任先頭2回をクリア。しかしスピード勝負になると予想した通り先頭集団のペースが落ちず「足がずっときつかった」。疲労で思考が止まり足を動かすので精いっぱいだったが、リンク脇の船場監督の指示を頼りに自分の位置を把握し、好位置を保ち続けた。

スタミナも尽きた最終周。後退しそうだったが、追走する後輩の木村（同）が「がんばれ」と澤尻の腰付近を手で押した。後輩の支えと会場の声援を背に、最後の力を振り絞りトップの選手らに続きゴール。全体3位の知らせを船場監督から聞き、笑顔でハイタッチを交わした。結果は従来の大会記録を上回る好タイム。「一人では出せない記録。応援に感謝しかない」と会心の笑みを見せた。

前日の1500㍍と合わせて2種目での表彰台は自身初。「チームメートや監督、地元の人たちへの恩返しになったかな」。故郷の北海道を離れて4年。多くの人に支えられた競技生活に思いを巡らせ、涙があふれた。

（髙松拓輝）



【スピードスケート成年女子3000㍍決勝】1500㍍に続き3位と活躍した澤尻磨里英（八戸学院大）

【スピードスケート成年女子3000㍍決勝】入賞を逃すも力走を見せた木村有希（八戸学院大）

澤尻の背中追いかけ

○…成年女子3000㍍決勝で、澤尻（八戸学院大）を表彰台へ後押しした木村（同）は、同じ北海道芽室町出身。自身は9位に終わり「やりきったが、入賞したかった」と悔しがった。

ポイントではなく「着順を狙っていた」が、集団についていくのが精いっぱい。最後、力を振りしぼってスパートをかけたが、入賞にはあと一歩届かなかった。

国体初出場の1年生は、澤尻の姿をしっかり焼き付けた。「最後まで粘り強いスケーティングをしている。自分もそうなりたい」。同郷の先輩の背中を追いかけ、来年は入賞を目指す。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです